

第4回福岡市都市計画マスタープラン改定検討懇話会 議事概要

- 1 日時 令和7年2月20日（木）10:00～11:10
- 2 場所 TKP エルガーラホール 7階 会議室1
- 3 出席者 朝廣委員、有岡委員、坂井委員、田中委員、
萩島委員（オンライン参加）、濱崎委員、三谷委員
- 4 会議次第 ① 開会
② 説明・意見交換
③ 閉会
- 5 委員からの意見概要

発言者	意見概要
委員	・コンパクト・プラス・ネットワークの観点から交通と土地利用はセットで考えていくことが重要ではないか。
委員	・人口動態など、各区の特徴に応じたまちづくりを進めることが重要ではないか。
委員	・海辺を含めて水辺は大事な場所であり、各区を流れる河川をうまく活用できると良いのではないか。
委員	・九州大学伊都キャンパス周辺では、理系の働く場が創出できると良い。
委員	・区ごとに図のスケールが異なるので、マストではないが、大きさが分かるような図を検討してはどうか。
委員	・区のまちづくりの方向性について、例えば早良区では、シーサイドももちなどの新たなまちづくりと、西新などの商店街の活性化は別の視点なので、区別するような文言があったらいいのではないか。
委員	・日用品の買い物をする店舗などが集積するまちとして位置づけている生活商業地に、賑わいなどの表現があると分かりやすいのではないか。
委員	・区ごとに特徴があるので、可能であれば、各区で個別に指標を設定しても良いのではないか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・区ごとの図で、水辺がどの凡例に対応するのかが分かりにくいので、他のゾーンと識別できるようにしてもらいたい。 ・和白干潟の北側は拠点等周辺ゾーン、東側は低層住宅ゾーンに位置づけられているが、バッファ地域として、宅地開発をするにしても、みどりやエコをコンセプトにするなどの記載ができないか。 ・今津干潟も、拠点等周辺ゾーンと隣接しているが、バッファを持たずにまちづくりをすることは危惧する。 ・河川には立派な木が育ち、みどりや生き物のネットワークとしての役割もあるため、そういうところを活用していくことについて、もう少し記述があるべきではないか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者や子育て世代が公園を活用するなど、少子高齢化の中、公園が果たす役割は大きくなっており、防災拠点としての活用についても、市民に知らせていくべき。 ・地域住民にとって近隣公園のネットワークは大事であり、景観形成上も、街路樹による魅力づくりもあってよいではないか。 ・歴史的な神社仏閣をつなぐ街並みのネットワークがあれば、観光客が福岡を歩きながら楽しむことができるのではないか。

委員	<ul style="list-style-type: none"> ・美しいまちをつくるには、ある程度のコストがかかるため、どの街路や公園を美しくするのか、美に対する覚悟を市が持たないといけない。 ・基幹となるルートの街路樹については、ある程度のコストをかけて、しっかり緑陰を確保したネットワークをつくってほしい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字の「緑」とひらがなの「みどり」を使い分けているのであれば、それぞれの定義を記載したほうがよいのではないかと。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・空港など、最初に降り立ったところが、福岡の印象になるため、しっかり作り込んでほしい。 ・特に博多には歴史的な街並みがあるので、ネットワーク化してウォークブルなまちにしていくことが大事。 ・九州大学伊都キャンパスの先の糸島市に向かう道路など、周辺市町村とのつながり方にも配慮してほしい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・指標については、分かりやすい指標を検討してほしい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・全市域におけるみどりの面積の指標については、OECM（保護地域以外で生物多様性保全に資する地域）もカウントし、福岡市の30%が永続的なみどりになり、国際的な目標（30by30）をクリアしたと言えるような形が望ましい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・数値目標を設定すると、質的なところに目が行かなくなってしまうので、慎重に検討してほしい。

以上